

平成 28年度 山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	創立33周年を迎え、「これを学んだ、これができる、この力を持っている」3つの自信の輪を広げよう。 ～学校の教育力・組織力をさらに向上させ、生徒一人一人の状況に応じた教育を実現する～
-----------	---

山梨県立甲府昭和高等学校
校長 井上 耕史

本年度の重点目標	学習環境の整備と学ぶ意欲を向上させる授業を推進し、生徒の可能性を伸ばす。 さわやか教育を徹底して、主体的に行動する生徒を育成する。 安心・安全と信頼に根ざした地域に貢献する学校づくりを進める。
----------	--

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(2月21日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の学力向上のため、学習環境を整備する。	シラバスに沿った、目標・指導・評価の一貫性のある授業を展開する。	教職員・生徒授業アンケート
		『紫映タイム』を活用し、生徒の「更に学びたい」意欲を喚起する。	紫映タイム参加者数と生徒アンケート
	自主的・計画的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。	手帳『未来へ』の活用により、予習－授業－復習の学習活動を確立させる。	手帳『未来へ』の活用状況
	グローバル社会に向けた、キャリア教育・進路学習を充実する。	SGHアソシエイト企画の幅広い展開や大学との連携講座等を通して、生徒の主体的な進路選択を可能にする。	総合的な学習の時間の実践発表内容

①教職員・生徒・保護者ともに7割以上が学習環境整備を評価している。紫映タイム参加者の約75%は好評価であるが、自主勉強を選択する生徒が多く、教職員の評価は40%弱に留まっている。

②手帳の有効性に関して、教職員と保護者に意識の乖離がある。生徒の自主的な学習姿勢を、7割の生徒は身につけていると捉えているのに対し、教職員約6割である。

③総合的な学習の時間において、キャリア教育・SGHアソシエイト企画に伴う活動を行い、種々の探究・発表の活動を行った。

B

①観点別評価での多面的な評価による学力向上を記した評価システムを構築したい。紫映タイムに関しては、内容・指導体制とともに、生徒・教職員の意識の共有を図る必要がある。ともに、本校の社会的ミッションという観点を持って取り組みたい。

②手帳『未来へ』の利用方法・指導手法の共有化が必要。学習への自主的な取り組みのために、生徒自身の進路意識の更なる涵養とそのための教職員による仕掛け作りが必要。

③総合的な学習の時間では、生徒に様々な探究活動の機会を提供できている。今後は、一つひとつの活動にじっくりと取り組む視点も共有したい。特に、仮説設定・情報収集・情報分析・結果考察・発表といった、テーマ設定から発表までの課題解決の手法を学ぶ機会を設け、主体的・共同的に問題を発見・解決する力を養いたい。

学校関係者評価	
実施日 (平成29年3月17日)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携講座の受講者数増加は評価できる。当該講座の受講生に限定されるが、主体的な問題発見力や問題解決力を向上させるため、「高大連携講座」「紫映タイム」「総合的な学習」などの関連付け(例えば、共通課題を設定する)の検討をお願いします。 ・学習環境整備が70%はとても評価できる。シラバスに沿った計画性の育成となると考える。今後の継続発展に期待したい。しかし、「紫映タイム」の活用と評価には、教職員との差が著しい事に注視したい。特に保護者の意識が低いのは、共有が図れていない事によるのか、今後、保護者との対話の必要性を感じる。 ・教える側と教わる側には大きな隔たりがあるのは当たり前だが、中間に居る保護者の理解度と意識改革的な要素は今後必要になるのではないかと考える。 ・SGHアソシエイト企画展開は、全県からの注目の中、大変頑張っているし、評価は大きいと思っている。大学との連携強化を高めて欲しいし、アクティブラーニングの実践での自立型の成長を期待したい。 ・「紫映タイム」の設置によって、学習に取り組む時間が補償されたことについては高い評価がされており、今後も継続すべき取組だと思う。ただ、その時間の目的をしっかりと周知させる必要がある。 ・デジタルになれている子どもがアナログ手帳「未来へ」を上手に利用することについては、教職員の相応な根気が必要になると思う。 ・新聞にも大きく取り上げてもらい、とても積極的に探究活動が行われていることがわかります。

2	規範意識の向上、基本的生活習慣の確立のために組織的に取り組む。	規則の遵守、5分前行動の励行等を中心とした生徒指導の手引きの活用をする。	規則違反件数や5分前遅刻者数	①規則違反件数は、H26の4件、H27の1件、H28は2件と推移している。5分前遅刻者数(累計)は、H26の353人、H27の251人、H28は183人と推移している。	B	①遅刻者数・規則違反者数の減少は、本校開校以来の「さわやか教育」の成果と自負している。今後は、交通事故・違反件数の更なる減少に取り組みたい。
	学校生活全般をととして、生徒が主体的に行動できるように取り組む。	学習活動、HR活動、生徒会活動、部活動などで、「TRY ○○！」を掲げ、自主的に行動する場面を設定する。	生徒授業アンケート、生徒会活動での生徒の活動状況	②「TRY ○○！」のプラス評価は、教職員・生徒ともに、6割前後に留まっている。ボランティア活動参加の「見える化」に取り組み、ボランティア活動に全く参加したことのない生徒の割合は、H27の35%からH28の25%に減少した。		②生徒会活動への各生徒の当事者意識を高める意味で、教職員の「積極的な見守り」を意識した指導を工夫したい。ボランティア活動の未参加率の減少を更にするめるとともに、複数回参加率の向上を期すために、ボランティア活動参加へのハードルを下げる仕掛けを作りたい。
	しなやかな心の育成のため、学校と家庭の連携を強化する。	三者懇談・保護者説明会等を通じて、学校と家庭の情報と指導の方向性の共有を図る。	教職員・保護者アンケート	③教職員の約85%、保護者の約70%が、三者懇談・保護者説明会等を通じて、学校と家庭における情報と指導の方向性の共有が図られていると捉えている。		③保護者との情報共有を更に進めるとともに、生徒指導面・進路指導面での保護者支援という視点で工夫を図りたい。
3	いじめ・体罰のない学校づくりと教職員・生徒の危機管理意識を涵養する。	LHR・総合的な学習の時間・特別活動等において、いじめ問題に対応する活動を行うとともに、職員研修会において服務規律確保についての研修を行う。	いじめ・体罰調査	①ほとんどの生徒は快適に学校生活を送っているが、生徒間のトラブルや心理的な軋轢が皆無という状況ではない。教職員・生徒の危機管理意識高揚のために、予告なしの避難訓練を実施した。	B	①いじめ・体罰のない学校であり続けるために、校内のスクールカウンセラーの来校日数確保による校内体制の整備が必要。教職員・生徒の危機管理意識の涵養のために、昭和町職員不在を想定した「昭和町指定避難所等運営マニュアル」を整備したい。また、生徒自らが自分を守る意識・術を身につける機会を工夫したい。
	保護者・地域に本校の実践の定期的な広報活動を行う。	「昭和町指定避難所等運営マニュアル」を整備する。	「昭和町指定避難所等運営マニュアル」の整備状況	②年6回広報紙を発行し、県内中学校に配布するとともに昭和町役場・地元西条一区(回覧)での閲覧を可能としている。学校HPのリニューアルにより、アクセス数の顕著な増加が見られる。		②広報紙の内容充実を更に図り、本校生徒の成長を、地域・出身中学校に伝えたい。学校HPにおける部活動・生徒会関係記事の更新体制を整備したい。
	本校の良さをアピールし、イメージアップを図り、生徒募集を積極的に行う。	定期的な広報紙の発行とホームページの積極的な更新を行う。	広報紙の発行、HPへのアクセス数	③学校説明会(中学生900人以上参加)、オープンスクール(中学生850人以上参加)に加え、中学校教職員対象説明会を実施した。H29年度前期募集では、定員36人に62人の出願(倍率1.72倍)、後期募集では定員204人に255人(2/21現在)の出願があった(倍率1.25倍)。		③オープンスクールは、本校の収容能力の限界を超えた参加者数に対応するため、2部制の開催も視野に入れたい。中学校教職員対象説明会・学校説明会(中学生・保護者対象)において、本校の教育方針・前期募集出願基準等を丁寧に説明し、中学校での円滑な進路指導に協力したい。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識向上策として実施した「5分前行動」について、5分前遅刻者数が2年連続して減少したことを評価する。 ・生徒からの元気な挨拶に好感が持てた。引き続きマナー意識向上の指導をお願いしたい。 ・学校と家庭における情報と指導方針の共有に加えて、円滑なコミュニケーションにより更なる連携強化をお願いする。また、保護者支援という観点からのアプローチに期待する。 ・挨拶運動や、5分前行動等が徹底的に実践され、これが校風となっていると強く感じる。 ・「TRY SHOWA」が豊かな内容である事で、生徒の「自主的に創造」して行ける強い意識がもう少し定着できると良いと思う。継続しての取り組みを期待したい。 ・規則違反件数は年々減少傾向にあり、大きな成果であると評価したい。今後も益々の減少数であってほしいと願う。 ・ボランティア活動が10%減、未経験者は22%とあるが、根本的な生徒との議論をし、「なぜ」を理解させる事が必要と思われる。 ・生徒指導面にとても力を入れて取り組まれていることがうかがえます。今後とも、生徒の安全に対する意識向上に向けご尽力ください。 ・この1年、昭和町の行事に積極的に関わってくれている様子が随所に見られ昭和町も活性化されてきているように思います。今後ともご協力をお願いします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPのリニューアルを含めた定期的な広報活動全般を評価する。 ・学校生活で何かトラブルがあった場合、生徒自身が教職員や保護者へ躊躇なく意思表示できるような指導や環境整備をお願いしたい。 ・マスコミによって勝手に造られた「いじめ」「体罰」という言葉から修正して行くことが大事かと考える。その為にも、「SC」の来校時間が減る事は、生徒と保護者の為にもならず、意味は無い。しかも予算配分的な要素であつたらなおさらである。「SC」の時間は増やして欲しい。 ・HPのアクセス件数が年間73,400件と非常に多いアクセスがあり、広報的には目標達成していると思われる。 ・特にオープンスクールや学校説明会には、多くの中学生の参加があり、方針と説明がしっかりしている事がうかがえる。 ・人数が多くなれば、生徒間のトラブルは少なからず生ずるはずです。いじめ等の早期発見・早期対応で対処することが大切です。 ・中学校の立場として、本校出身の生徒が活躍する姿を見せてもらえるのがとてもうれしいです。今後とも、素晴らしい広報誌の発行を期待しております。 ・定員が削られたのがとても残念です。甲府昭和高校の良いところをさらにアピールすることで、希望者が増え、定員の見直しをさせるような事態になることを期待しています。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。